

A. 主な動き

1. 内政

ティモシェンコ前首相に対する刑事訴追

・21日、カルパチョヴァ最高会議人権担当全権は、ティモシェンコ前首相の健康状態は極めて深刻であるとし、然るべき医療施設における治療の必要性をアザーロフ首相に指摘。一方、国家刑務所管理庁は、同前首相は深刻な健康状態ではなく、診察を自ら拒否している旨発表。

・23日、アニシチェンコ保健相は、キエフ市内の医療施設においてティモシェンコ前首相の診察が行われた旨発言。同日、国家刑務所管理庁は、同日の診察結果により同前首相の健康状態に生命を脅かすような変化はなく、今後も取り調べを行うことに問題はないことが判明した旨発表。

大統領の動き

・22日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ポルトノフ大統領補佐官兼大統領府司法総局長を代表とした検事及び弁護士との活動改革に関する作業部会を設立。

・24日、ヤヌコーヴィチ大統領は、スミ州を訪問。軍事訓練高等専門学校及び州立青少年劇場を視察、製菓工場等の開所式に出席。

・24日、ヤヌコーヴィチ大統領は、17日に最高会議において採択された新たな最高会議選挙法に署名する用意があるが、憲法に反する規定が含まれていることが分かった際には拒否権を行使し最高会議における審議に差し戻す旨発言。

オレンジ革命7周年記念日

・19日、キエフ市地区行政裁判所は、22日のオレンジ革命7周年記念日に際し、21～22日のキエフ市中心部における集会の禁止を決定。しかし、22日、活動家約2,500名が独立広場にてオレンジ革命記念集会を実施、当局は活動家数名を拘束。

2. 経済

マクロ経済

・25日、閣僚会議は、来年の予算案をベースとしたマクロ経済指標を修正する旨報告。財務省は、従来2012年のGDP成長率を5.0%と予測していたが、IMFの悲観的な予測を考慮し、3.9%に下方修正する旨報告。

IMF

・21日、IMFは、11月18日にウクライナへの2008年スタンバイ合意のレビューに関する報告書を出版した旨報告。本報告書によれば、ウクライナは効率的な協力のための責任が欠如しており、短期間の目標はいくらか達し得たものの、中期的な目的へはほとんど進捗がないとの評価。また報告書には、レビューからの重要な教訓として、責任感とガバナ

ンスが重要であるが、ウクライナにはそれをなし得る明確な回答がない旨記載。

・21日、中央銀行は、ウクライナ政府がIMFの代わりに融資拡大のため中国中央銀行からの提案を受領した旨報告。以前、アザーロフ首相はIMFの融資無しで一年間は問題無い旨の発言があったが、中央銀行は首相のポジションは中国銀行からの提案により説明出来得ると発表。

・24日、アルプゾフ中央銀行総裁は、次のIMFミッションが12月中にウクライナを訪問する予定である旨発言。また、アザーロフ首相は、家庭のガス価格の値上げなど、ウクライナへの次回トランシェに関して厳しい課題があり、次回交渉の延期もあり得るが、メインイシューは予算の赤字額及び支払いによる残高になるだろうとの発言。

・25日、チヒプロ副首相は、IMFがウクライナへの融資継続を拒否した場合に備え、中国、インド、ブラジルあるいはロシアからの融資を調整する旨の発言。同副首相は2012年の利子と負債で150億ドルを支払う必要があるため、融資の必要性を強調。

農業

・22日、プリシャジニウク農業政策・食料相は、穀物輸出に関する交渉のため、サウジアラビアを訪問。25日、閣僚会議プレスサービスは、ウクライナは、食用小麦のサウジアラビアへの輸出に関して、サウジアラビアと合意することを望んでいると発表。

その他

・21日、閣僚会議は、ボリスポリ国際空港ターミナルDの建設に関して、建設コストが16%増となることが見込まれる改訂プロジェクトを承認。新しい計画によれば、ターミナルエリアは107,000m²で20%拡張するとともに、国際線及び国内線の両方のサービスが提供可能となり、2012年3月25日に新ターミナルでの最初のフライトが計画。

3. 外政

リトアニア大統領のウクライナ訪問

・22日、グリボウスカйте・リトアニア大統領は、ウクライナを訪問しヤヌコーヴィチ大統領と会談。第5回目となる首脳会談後、両者はインフラ担当省庁間協力に関する覚書、科学技術協力及び外相間協議に関する文書に署名した。首脳会談後の記者会見では、グリボウスカйте大統領は、12月19日のウクライナ・EUサミットが成功するか否かは、ウクライナ側がティモシェンコ前首相の裁判に欧州の民主的価値観を如何に反映させるかにかかっている旨述べた。ヤヌコーヴィチ大統領は、これに対し、ウクライナの欧州統合への行

程が一時中断することを排除しないものの、ウクライナ国内の改革が進行することから停止することにはならない旨述べた。

▼アザーロフ首相のカザフスタン訪問

・23～24日、アザーロフ首相は、カザフスタンを訪問し、マシモフ首相と会談し、本年9月までの両国間の貿易額は昨年同時期に比べ70%増加した旨述べた。アザーロフ首相はまた、ナザルバエフ大統領とも会談し、両者は両国関係がダイナミックに発展している旨述べ、航空、宇宙、エネルギー、運送における協力関係に関する議論がなされた。アザーロフ首相は、更に、CIS諸国との自由貿易協定の批准が遅延することはないと確信している旨述べた。

グリシチェンコ外相のインド訪問

24～25日、グリシチェンコ外相はインドを訪問し、メノン国家安全保障問題担当首相補佐官、シャルマ商工相及びクマール下院議長と会談した。各会談では、原子力分野での協力、機会・造船・エネルギー・鉱物分野での協力、共同インフラ計画、近い将来に貿易・科学技術・産業・文化協力に関する第4回政府間会合を開催することの重要性、国連安保理改革、国際的テロ問題、両国間の議会交流の促進等につき協

議が実施された。

▼チヒプロ副首相のスウェーデン訪問

・25日、チヒプロ副首相はスウェーデンを公式訪問し、ビルト・スウェーデン外相と会談。ビルト外相は、ウクライナは欧州における重要な国であり、EUウクライナ連合協定文書の最終版が作成されることの必要性を強調した。チヒプロ副首相は、これに対し、ウクライナ国内の改革の進捗状況につき説明した。

4 . 防衛

・23日、クリムキン外務次官は、同日ブリュッセルにおいて実施されたウクライナ・NATO委員会に出席、NATOは本年度の両者間協力を肯定的に評価している旨発言。

・24日、ヤヌコーヴィチ大統領は、スミィ州の軍事訓練高等専門学校を訪問、政府はウクライナの軍事改革を重視しており、近い将来に新たな国家安全保障戦略及び軍事ドクトリンが採択される見込みである旨発言。

・24日、グリシチェンコ外相は、防衛ミサイル配置問題を巡る米露間対話における進展が見られない旨指摘、両国間の関係悪化は欧州の安全保障・信頼関係強化に向けた努力に影響する旨発言。

(了)